

平成24年度第2回 北九州市水道事業検討会 会議要旨

【日 時】 平成25年2月15日（金） 15:00～16:30

【場 所】 上下水道局大会議室（小倉北区役所庁舎東棟5階）

【委 員】 小畑委員、菊池委員、宗委員、武谷委員、
松明委員、柳井委員、吉本委員〔50音順〕

【出席職員】 吉田上下水道局長、田中海外事業下水道担当理事、橋本総務経営部長、
伊崎海外事業部長、松尾給水部長、柴田危機管理体制強化担当部長、
島津浄水部長、二宮総務課長、佐藤経営企画課長、谷収益戦略担当課長、
老山海外事業課長、竹下営業課長、藤村計画課長、津田配水管理課長、
榎田設計課長、古野浄水課長、笥品質保証担当課長、
経営企画課（事務局）

《議 題》

- 1 平成25年度予算（案）について
- 2 主な事業の取り組み状況について
 - ①配水管更新事業
 - ②海外水ビジネスの展開
 - ③水道事業の広域化

◇議題 1 平成25年度予算（案）について事務局から説明

◆議題 1 平成25年度予算（案）に関する質疑応答

（委 員）

本日、欠席となっています佐藤委員から本議題について、意見をいただいています。

「積極的な事業展開と健全経営を図る方針には賛同します。それが、適切に執行されることを切望する。」という内容となっています。

（委 員）

意見でございます。

資料1の右側ですが、書き出しで「料金収入の減少傾向が続くなど、厳しい経営状況が見込まれるなか」という表現になっています。これは、決して間違いではありませんが、上下水道局として、何も努力をしていない訳はないはずで、一生懸命、最大限の努力をしているにも関わらず、料金収入が減少傾向となる理由をしっかりと明らかにしておくべきであると思います。

いきなり料金収入の減少の文言から入るのではなく、水道使用者の節水意識の向上、節水機器の普及、大口水道使用者による地下水利用への転換等、社会的要因などといった理由を前段に書き加えられますように検討をお願いします。

◇議題 2 主な事業の取組状況について事務局から説明

◆議題 2 主な事業の取組状況に関する質疑応答

①配水管更新に関する質疑応答

(委員)

漏水事故がらみで意見を述べさせていただきます。

先日、漏水事故を発見し工事事務所に通報をしましたが、到着までにかかなり時間か掛かったと感じました。緊急性のあるなしに関わらず、もう少し迅速に対応してもらいたいと思います。

さらに、夜間に、万が一、緊急性の高い事故が発生した場合の対応はどのようにされているのでしょうか。

(事務局)

漏水事故を通報していただきまして、ありがとうございます。

到着が遅かったということですが、まず、お詫び申し上げます。平日の昼間は職員が工事事務所にいますし、休日及び夜間は、監視員が待機して職員に連絡をするようになっています。また、緊急業者も常時待機しています。

夜間に事故があった時の対応ということですが、東西の工事事務所は365日連絡が取れるようになっており、何かありましたら、緊急業者を出動させるとともに職員を呼び出します。土日祝日も含めて遅くとも2時間以内には現地に行って事故対応をするというルールにしています。職員がいる平日の昼間は、2時間も掛からないで概ね30分で対応していると思います。

漏水事故がおこらないようにするために老朽管の更新を進め、事故が起こった時は迅速な対応に努めます。

②海外水ビジネスの展開に関する質疑応答

(委員)

海外水ビジネスについては、かなり成果を上げられていると思いますが、収益源としてビジョンがきっちり描かれているのか少し気になっています。新たな収益源として期待されていますので、今後、これが重要な収益源の一つになれば、この水ビジネスは新しい段階に入ってくると思われしますので、少しずつビジョンも作られたほうがよいと思います。

(委員)

佐藤委員から、「海外水ビジネスは市全体の事業なので、活動経費の一部は、一般会計から充ててもらうのはどうでしょうか。」という質問が出ています。

(事務局)

水ビジネスは、地域産業振興と局が収益を得るビジネスの要素があります。産業振興に繋がる部分は、税収となって一般会計に入ってくるので、一般会計が負担するという考え方はあり得ると考えています。その考えから市の財政当局とは協議をしています。

③水道事業の広域化に関する質疑応答

(委員)

佐藤委員から、「近隣の自治体と協議を進め、北九州市の水道事業が中心的な役割を果たせるように」との要望がありました。

(委員)

説明を聞いて、ポイントは、市民生活に影響を与えないこと、施設の有効活用と双方の自治体にメリットがあることで、これは外せない原則だと思います。今後、近隣自治体の課題やニーズの調査を的確することが大事だと思いますので、引き続き取り組んでいただきたいと思います。

広域化による収益が年間15億円で、給水収益全体の9%はかなり大きな額だと思いますので、今後も増やして、相手にもメリットがある関係を築いていっていただきたいと思います。

(委員)

北九州市の水道は安いので、北九州市のためだけでなく、他の自治体のためにも、いろいろな自治体の事情も調べて取り組んでいただきたいと思います。

(委員)

とても良い取り組みだと思います。北九州市という区切りでなく、同じ地域ということで、良い水を適正な価格で供給できるように他のエリアでも少しずつ広めていただきたいと思います。

ちなみに、下水道は連携がありますか。

(事務局)

遠賀川の流域で複数の都市が、下水道を共用している例はありますが、これは、流域下水道という制度で県が事業主体となってやるものです。それ以外では、法的な整備が進んでいませんので、連携というかたちはありません。

◆ その他全般に関する質疑応答

(委員)

中国の公害の問題でPM2.5が問題になっていますが、安全に飲める水道水が確保されているのかお聞きします。

それと、水ビジネスについてですが、テレビで市制50周年の時に取り上げられていましたが、一般の方は、水ビジネスは水を売るものだと思われていますので、PRがとても大事ではないかと思いました。

(事務局)

PM2.5は、微少粒子状物質といいまして、直径が2.5ミクロンのものです。それが、雨やゴミとか塵に付着して落ちてきて、河川等を含めて浄水場に入ってきます。浄水場では、浄水処理である凝集剤による凝集沈殿で十分落ちます。また、ろ過後に濁りの度合いを測る濁度測定をします。浄水場には、0.1ミクロン以上のものを測定できる高感度濁度測定器がありまして、常時、監視をしています。2.5ミクロン以上のものがあれば濁度として出てきますが、今のところ問題ないという状況ですのでご安心ください。

(委員)

マイクロ水力発電の導入でお聞きします。

太陽光発電は、年間の日照量により、場所によっては意外と発電しないと聞いたことがあります。水力発電の方は、農業用水のような少ない水量でも発電できると新聞で知りました。でも、1箇所につき予算が6千万円は、高いのでしょうか安いのでしょうか。

(事務局)

水力として発電ができる所としまして、ダムから浄水場の間の水位差を使う発電、浄水場から配水池に送るポンプの余剰圧力を使う発電、標高の高い配水池から低い配水池へ送る水位差を使う発電の3箇所があります。今回のマイクロ水力発電は、配水池から配水池の間で発電するというもので、水位差が変わらず安定した水量で発電ができます。マイクロ水力発電は、100キロワット未満のものをいいまして、今後、このようなものを作っていくように考えています。

6千万円が高いか安いということですが、マイクロ水力発電は小規模の施設なので、大規模な水力発電に比べ建設費は安く、電力買取制度を利用して20年間で採算が取れる計画をしています。

(委員)

20年間で採算が取れるということですが、それが高いのでしょうか安いのでしょうか。

(事務局)

発電機は、機械ものですが20年以上の耐用年数がありますので、20年間で採算が取れるということは費

用対効果があると考えます。

(委員)

設備は20年から30年は維持できますから、個人的には適正価額と思います。しかし、この分野は、今後、技術革新が進んでいくと思われまますので、技術革新が高くない状況での大量導入は避けたほうがいいと思います。少しずつ設置をしていき、技術革新がもうこれ以上進まないという段階で大量導入するほうがいいと思います。

(委員)

マイクロ水力発電、いわゆる小水力発電には、今、NEDOからの補助はありますか。

(事務局)

厚労省等の補助が平成25年度から予定されています。この補助は、自家消費が補助要件となっています。今回、設置を予定しています水力発電は、自家消費をする施設への設置ではありませんので、補助申請は考えていません。